

2014 10/28

No.1981

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



横浜の最低気温が12.7度まで冷え込んだ16日、富士山で初冠雪が観測され、秦野市街を一望できる権現山(243メートル)からもうっすらと雪化粧した姿が楽しめた。初冠雪は昨年より3日早く、平年より16日遅いという(甲府地方気象台調べ)。



# 政経かながわ

2014 10/28 No.1981

## contents

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 視点・点描                              | 3  |
| 「パナマ事件」と日本社会                       |    |
| 政治                                 | 4  |
| 安倍政権の余裕と油断<br>支持率40%維持がポイントに       |    |
| 社会                                 | 6  |
| 隠岐諸島・海士町のまちづくり<br>新ブランドで“外貨”獲得     |    |
| 経済                                 | 8  |
| “風雲児” ウーバーが勢力拡大<br>スマホ配車でタクシー業界と火花 |    |
| くらし2014                            | 10 |
| 子育てに古武術のワザ                         |    |
| 広告珍談                               | 12 |
| ～いまこそ広告すべき⑨<br>おらは死んじゃったヨ          |    |
| NNAアジア経済レポート                       | 13 |
| 神奈川景気データファイル                       | 14 |
| 神奈川景気データファイル                       | 15 |

### 事務局だより

#### ◇横浜定例講演会

2014年11月5日（水）

13時30分～15時

ロイヤルホールヨコハマ

5階「リビエラの間」

講師は共同通信社客員論説委員、星槎大客員教授の

佐々木 伸 氏

演題は「世界を揺るがすテロ  
集団『イスラム国』の恐怖～  
米国の軍事介入で混迷の中  
東・国際情勢」

#### ◇横浜定例講演会

2014年12月12日（金）

横浜ベイシェラトンホテル&  
タワーズ 4階「清流」

▽講演会 11時～12時30分。

演題は「2015年の動向を読む」。講師は神奈川新聞社論  
説主幹の中嶋 弘孝氏、共同  
通信社政治部長の鈴木 博之  
氏、同社経済部長の谷口 誠  
氏、同社外信部長の儀間 朝  
浩氏

▽交流会 12時40分～14時

# 視点 点描



## 「パナマ事件」と日本社会

パナマ運河が開通して今年で1

00年。スエズ運河開通（186

9年）の立役者、フランス人レセッ

プスが会社を興して取り組んだ

が、見通しの甘さと厳しい地形に

阻まれ、頓挫。合衆国が諸権利を

買収し、10年にわたる工事の末、

1914年8月15日に開通した―

ということをこの夏、大佛次郎記

念館の特集展示「大佛次郎の『パ

ナマ事件』」を取材し、初めて知っ

た（展示は12月25日まで）。

横浜生まれの作家・大佛のノン

フィクション作品「パナマ事件」

は、このパナマ運河会社をめぐる

19世紀末のフランスを揺るがした

大疑獄事件が題材だ。

難工事のため、資金難に陥った

レセップスは、起死回生策として、

くじ付きの債券発行を計画。その

発行許可を得るため、議員らに要

求され金を渡した、とされる。債

券発行のいかなく会社は破産。そ

の後、議会でパナマ運河の責任問

題がとりあげられる中で、買収工

作が明るみに出た。だが疑惑は政

争の具となり、結果としてうや

むやにされた。

当時のフランスは、幾多の革命・

戦争・クーデターを経た、第3共

和制の時代。国王や貴族による支

配にかわり、よりよい政治の仕組

みとして選んだはずの共和制の腐

敗に、国民が落胆しただろうこと

は容易に想像がつく。

共和制に期待していた大佛は、

その欠点を直視しつつ、ひとつの

失敗でもって、全てを捨て去ろう

とする愚（議員が汚職をしたから

と議会政治を否定し、国王や皇帝

の時代を懐かしがる）を嘆いた。

そして、欠点の指摘がそのま

ま、全存在の否定に容易に利用

されうることを危ぶんだ。大佛は

「パナマ事件」を戦前に構想した

ものの「折角存在する日本の議会

が弾圧を受けて大政翼賛会化に向

う時期だったので」執筆を見送っ

たと、晩年に記している。

どんな制度にも、長所と短所が

ある。それを忘れて、Aというシ

ステムの短所をあげつらい、長所

のみを吹聴するシステムBに切り

替えるということを、私たちは繰

り返してきたのかもしれない。「定

期的な浚渫が必要だから」と水力

発電から火力にシフトし、火力は

「二酸化炭素を排出するから」と

原子力に乗り換えた。原発の「放

射性廃棄物と事故の危険」が実感

されると、次は再生可能エネル

ギーだという。大佛の危惧は、議

会政治にとどまらず、日本社会全

体の今日的な問題である。

（神奈川新聞社教育担当部長

青木 幸恵）

# おらは死んじまったヨ

世の中、奇妙な人がある。

自分の死体を、1000円で売りますと広告した「宮武外骨」というお方。

ジャーナリストであり、新聞雑誌の研究者であり、風俗史家でもある。讃岐の出身で宮武姓であったが、苗字なんかじゃまだ、捨ててしまえと《廃姓》した。親からもらった名前は「亀四郎」、そこで考えた。亀は外側に甲羅（こうら）という骨があり、中身は肉ではないか。わが輩はそうであるべきと、名を《外骨》にした。

明治になる前年の1867（慶応3）年生まれ。1925（大正14）年、図の広告をだした。《死体買取人を求む》、いわば求人広告かな。広告主は「廃姓外骨」、いわく「当年五十八歳になっても、

まだ知識欲の失せない古書研究

死体買取人を求む  
廃姓外骨

「自分の死体を1000円で」

者。探しているものを一々あげれば、新聞全紙を埋めても足りない、それよりか自分一身上の大問題について探しているものを申し上げる」

「自分の死後の肉体をかたずけることに心配している」。「自分は希代のスネモノ、灰にして棄てられるのは惜しい気がする。そこでこの死後の肉体を買い取ってくれる人を探している

る。ただしそれには条件がつく。かりに千円で買い取るとすれば、その契約と同時に半金五百円を保証金として前払いしてもらい、あとの半金は死体と引換え（友だちの飲み代）。前取りの半金は死体の解剖料と骸骨箱入りの保料として東大医学部精神病科へ前納しておく。故に死体は引き取らないで、すぐに同科へ寄付してよろしい」

「オイサキの短い者です。至急申込みを要す」

この広告はなに新聞に掲載したのか、知らない。ご自分でもジャーナリストとして、『滑稽新聞』や『頓智協会雑誌』、『此花』や『スコブル』という雑誌、『不二』という日刊雑誌を発売。そのどれかに掲載したのだろう。この広告がキメがあつたかどうか、それも知らない。なにしろ1955（昭和30）年、88歳でお亡くなりになった。場所は東京大学構内、近くに医学部があつたかどうか、それも知らない。

なぜ東大か、吉野作造や石井研堂、尾佐竹猛などと「明治文化研究会」を組織。ぼう大な『明治文化全集』を編集・発行した。26（昭和元）年には、東大に設けられた「明治新聞雑誌文庫」の主任となり、研究に没頭されたからである。（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図）「死体買取人を求む」の広告。1925（大正14）年掲出